2018年9月26日（水曜日）の朝日新聞に
救缶鳥の日のイベント(運動靴の寄付)について
掲載されました!

27 栃木 13版 2018年(平成30年)9月26日(水) 朝日新聞

アフリカの子へ 運動靴 贈ろう

「登校も遊びも楽に」…中古募る

缶詰パンで知られる那須塩原市の「パン・アキモト」（秋元義彦社長）が、中古の運動靴をアフリカの子どもたちへ贈る運動を始めた。同社が取り組んでいる、世界の貧困地帯などに缶詰パンを贈る「救缶鳥プロジェクト」の一環。運動靴の第一便は、11月にもアフリカへ向けて送り出される。

那須塩原「パン・アキモト」

今月9日、同社の店舗前にある駐車場のテントに、市民らが次々と運動靴を持ち込んだ。同社がアフリカへ贈る靴を求めていることを知り、協力しようと集まった人たちだ。靴は中古だが、どれもきれいに洗濯されている。

市内の主婦(64)は5足持参し、「以前から捨てるのはもったいないと思っていた。アフリカで有効利用してほしい」と話した。さくら市立氏家小4年の手塚梨珠(りず)さんはカラフルな9足を持参し、「きれいなので大事にしていたら、すぐに合わなくなった。アフリカの子たちがこの靴を履いて、けがなく元気に走り回ってほしい」。この日は約30人が、計150足を持ち寄った。

きっかけは今春、同社の秋元信彦営業部長(39)が、救缶鳥プロジェクトでパンの缶詰をアフリカ南部のエスワティニに届けた時のことだった。地域の代表や子どもたちなど計300人ほどが参加して贈呈式が催された。

式の直後、子どもたちが缶詰が入っていた空き箱をボール代わりにし、サッカーを始めた。遊びの道具がないからだった。秋元さんは通訳を介して、缶詰のほかに欲しいものがあるか尋ねた。すると、遠慮がちに「靴があると登校も遊びも楽になる」との返事があったという。

秋元さんが改めて子どもたちの足元を見てみると、半分が裸足。もう半分の子どもも穴だらけの靴を履いていた。そこで日本で不要になった運動靴を集め、現地の子どもたちへ贈ることを思い立ったという。

秋元さんは「現地では入学の際に靴が支給されるが、品質のせいかすぐにだめになるようだ。日本では捨てられるような運動靴でも、立派に役立つのは間違いない」と話す。10月28日午前10時から店舗前で2回目の寄付の受け付けをする。問い合わせはパン・アキモト（0287・65・3558）へ。（池田敏行）

アフリカに贈るため9足の運動靴を持参した手塚梨珠さん（右）＝いずれも那須塩原市東小屋

集まったきれいな運動靴に笑みがこぼれるパン・アキモトの秋元信彦さん